

11月17日ポリス&カレッジ

## 「家族と見直そう 自分の運転・みんなの安全」

龍谷大学政策学部 井上ゼミナール

### 0. 現状整理

#### 0-1 高齢者を巡る3つの増加

- 65歳以上比率の上昇・・・高齢化社会が浮き彫りに、益々進む。
- 免許保有者数の増加・・・高齢化社会に伴って、65歳以上の免許保有者が増加
- 高齢運転者事故の比率上昇・・・第一当事者が高齢者の事故が増加。

#### 0-2. 高齢者が第一当事者の事故要因

- 過信や油断・・・・・・・・多くの高齢者が今までの経験より、運転に自信があると回答  
西日本高速道路株式会社によると 76.0%
- 視力の低下・・・・・・・・加齢により  
・動体視力、夜間視力の低下、視野の狭さが進む。
- 体力・筋力の低下・・・加齢により  
・筋能力や調整能力の低下、反応時間の遅さが進む。

#### 0-3. 簡単に手放せない現状

- 地方と都市部での違い・・・交通の便が整った都市部と、交通的・生活的に不便な地域では返納意思に大きな差が出ている。  
例 京都市 47.0% 京丹後市 23.3%
- 返納後への不安・・・・・・・・返納をすることによって、生活や精神面に不安が出る恐れがある。  
例 買い物・通院  
自由な外出が難しく、さみしくなる・ネガティブになる。

#### 0-4. 家族の存在の大きさ

高齢者において、意思決定を後押しする存在として家族があげられている。  
これは高齢ドライバーの問題に限ったことではないが、日産自動車が行った「運転能力の衰えを誰に指摘されると納得するのか」という問いに対して、妻などの配偶者が52.0% 子供からが51.7%と大きな割合を占める結果となっている。  
しかし家族は、高齢ドライバーの問題において、デリケートな問題であるがゆえに、ア

プローチの仕方がわからず、大半が何もできていない(44.0%)と答える結果となった。

## 1.提案

そこで我々は、高齢ドライバー問題に対して、2つの政策を提案する。1つは企業の高齢ドライバー実車講習を用いた「家族 de 運転チェック！講習」、もう1つは「話し合いからの見直し～家族 de 運転チェック！宣言書編～」である。

### 1-1.具体的な政策提案

#### 提案①「実車・同乗からの見直し～家族 de 運転チェック！講習編～」

##### ①-1.提案理由

企業が実施する講習の多くは、「高齢者のみ」で運転し、自身の運転技術や体の衰えを自覚する設定になっている。しかしその現状では高齢ドライバーの中で自己完結してしまう恐れがある。そこで日産(2018)の調査から運転に関する指摘をする相手として家族が有効であることがわかった。そのデータに基づき、現状の高齢ドライバー講習に対して家族に同乗してもらうことを提案する。

##### ①-2. 目的

この政策の目的は以下の3つである

- ・「運転の癖」や「体の衰え」を家族に指摘してもらう
- ・自身の自動車運転について考え直す
- ・運転の今後について家族と話し合う機会を作る

##### ①-3.既存の企業主催 高齢者実車講習の現状

現在、高齢者実車講習は様々な企業で行われている。主な例として、自動車整備会社のJAF・自動車販売会社のHONDAが挙げられる。各企業によって詳細は異なるが、

日時：平日・土日、午前・午後問わず開催

場所：各地の教習所

参加条件：高齢ドライバー

内容：適切な運転姿勢と車の死角確認、スラローム走行、信号システムを使ったブレーキ体験、先進安全自動車体験 など

現状、同乗せずに高齢ドライバー自身で、運転の癖や自身の衰えを自覚するカリキュラムになっている。このうち、「参加条件」と「内容」に家族を加える。家族を参加させた提案が次の通りである。

### ① -4.「家族 de 運転チェック！講習」

家族などが集まりやすい土日や長期休暇のタイミングの講習を活用し、

参加条件：高齢ドライバー **＋その息子・娘、孫などの家族の同乗**

内容：1-4 記載の内容 **＋実車講習に家族の同乗**

**同乗家族は、添乗チェックシートを基に運転を見る**

**家族からのフィードバック** を行う。

家族は高齢ドライバーの運転する車に同乗し、運転の際に気を付けるポイントや、注意すべき点などをまとめたチェックリストを元になるべく客観的に見ること、また家族として主観的に運転や今後の在り方について考える機会となる。

### ① -3.提案の流れ



警察には企業への協力要請や、広報での協力体制が求められる。

### ①-6.提案のメリット

高齢ドライバー：・運転の癖を家族に指摘してもらえる

・実車講習内容がより納得のいくものになる

参加する家族：・家族の現状を知る機会になる

・より運転に関する意識を持たせることができる

・添乗する家族自身も、自分の運転に注意を払うことができる

実施企業：・既存の内容を大幅に変更せずに、講習参加者の満足度を上げることが可能

・講習内容のクオリティを上げることができる

## 提案②「話し合いからの見直し～家族 de 運転チェック！宣言書編～」

### ②-1 提案理由

我々は、運転に関して話し合う場が必要だと考えた。自らの家族はもちろん、第三者の客観的な意見（自動車運転に関する）を共有することで、高齢ドライバー自らの運転を見直す

きっかけになるのではないかと考えた。新井和弘・坂倉杏介著『グループ学習入門』(2013)によると、「自分がどう理解しているか、自分が他者とどう関わっているか知ることが、自分の思考が変化するために大きなきっかけである。」と、述べられており、他者とのコミュニケーションの重要性が説かれている。

## ②-2 目的

この提案の目的は以下の3つである

- ・主観だけでなく、客観的な運転の意見を得るため
- ・家族との約束作りのため
- ・運転の約束を決めるため

## ②-3 提案の流れ

### (1) シャッフルで参加と話し合い 班分け

- ・当事者とその家族を無作為にシャッフル。テーマに沿って話し合いを行う。  
※テーマの例…運転で困っていること、対策していること、身体能力で不安なこと、運転経験や過信に関すること
- ・話し合いのファシリテーターは、「大学生」とする。大学生である理由は以下の3点だ。
  - ・ちょうど孫世代に当たる（祖父母が70代～80代）
  - ・ポリス&カレッジのネットワークを最大限に活かすことが可能
  - ・大学生の時代に免許を取得する人が多い傾向。自身の安全や運転時の気づきや注意事項としての意識付けが可能

### (2) 戻って家族と話し合いの共有

- ・(1)の班から戻って、家族と話し合いの共有をする
- ・チェックリストを基に、宣言書作りのために、運転を見直す

※チェックリストの例

- ・運転中にバックミラーをあまり見なくなった
- ・合流が怖く（苦手）になった
- ・運転すると妙に疲れるようになった
- ・道路標識の意味が思い出せないことがある
- ・急発進や急ブレーキ、急ハンドルなど、運転が荒くなった

(出典) 特定非営利活動法人高齢者運転支援研究会より

### (3) 家族と宣言書作り

- ・チェックリストを基に、家族と運転の約束を決める
- ・(2)のチェックリストを経ることで、自然と約束に拘束力が出る。

免許返納や今後の車の乗り方への指針としてもらう

(出典) 米田ハートフォードフィナンシャルサービス同意書・チェックリスト参照  
信号無視、道路選択トラブルなど19項目を想定

開始当初は年に3回程度、1回あたりの参加募集は10~15家族を想定としている。

徐々に拡大を検討する。

## ②-4のメリット

ここでは、各セッション別に提案のメリットを述べていく

### (1)

- ・他者と話し合うことで、運転を見直し新しいアイデアや得られる
- ・他の子供、孫世代の意見が聞ける

### (2)

- ・(1) で気づいたことをすぐに家族と共有できる
- ・運転に対するそれぞれの思いをすり合わせる

### (3)

- ・(1) (2) によって、多様な意見をもとに宣言書を考えられる
- ・家族と一緒に今後の展開も考えられる

## 1-2.2 つ提案がある理由

今回、我々は2つ政策提案を行った。その理由は「高齢ドライバーの運転や自身の衰えに気づき、見直すきっかけを増やしたいから」である。1つ目の「家族 de 運転チェック講習」では、実車を用いたものである。そのため、運転技術の確認から現状を体感することができる。2つ目の「話し合いからの見直し～家族 de 運転チェック！宣言書編～」では、高齢者が納得できるルール作り、家族が安心できるルールづくりを中心に、改めて運転のことについて話ができる場を提供している。心理的・また対話のアプローチで、高齢運転者の現状や課題、他者の工夫を知ることができる。各家庭の状況に合わせて、2つの提案、どちらかの取り組みだけの参加も十分可能だ。両者受けることによって、効果が最大化するケースもあると考えている。これらの取り組みに参加することで、高齢ドライバーの今後を考える機会になるのではないだろうか。

## 2. まとめ

二つの提案によって、気づき・見直しのきっかけを多く作るだけでなく、各家庭の状況に合わせてどちらか一方の参加も可能になる。

高齢ドライバーの問題は免許返納がすべて！ではないが、見ているだけで、何も対策を行わないのも間違っている。痛ましいニュースなどによって、社会はもちろん家族の中に社会問題としての意識が芽生えている今、家族と共に考え、悩み、納得感のある運転やこれからを考えていく必要があるとわたしたちは考えている。